第２回デフリンピック運営委員会
議事次第

日時：2023 年 8 月 7 日 15：00～17：00
場所：戸山サンライズ　２階　大会議室

１．　委員長挨拶

２．　事務局から
・連盟７月理事会で確認をした運営委員会各規程改正等について

３．　議題
（１）2023 年度事業「全国への気運醸成の推進事業」（案）
（２）「第 25 回夏季デフリンピック競技大会東京 2025 大会概要」の策定について

４．　その他
（１）2023 年度事業「大会エンブレム制作」
（２）2023 年度事業「社会的・文化的プログラムの検討」
（３）デフリンピック大会運営にかかるアスリート会議について
（４）2023 年度デフリンピックの都内気運醸成に向けた取組について

3．（1）2023年度事業「全国への気運醸成の推進事業」

1）報告事項

① デフリンピック・フェスティバル（仮称）案

○ デフリンピック・フェスティバル（仮称）の開催の取り組み
→2025年デフリンピックへの気運醸成やデフリンピックやデフスポーツについて関心や認知の向上を図るため、全国８ブロックでの開催の取り組みを後押しする

○ 実施個所：全国８ブロック（北海道、東北、関東、東海、北信越、近畿、中国・四国、九州）
→★札幌市（北海道）、郡山市（東北）、★神奈川県（関東）、静岡県（東海）、福井県または石川県（北信越）、大阪府（近畿）、★鳥取県（中国・四国）、★福岡県（九州）　※★は開催確定

② スケジュール 進捗状況

2023年度

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
各ブロックへの説明及び開催打診		開催県決定	開催県との打ち合わせ及び連絡調整	デフリンピック・フェスティバル（仮称）を、全国８ブロック（北海道、東北、関東、東海、北信越、近畿、中国・四国、九州）で各１回、開催							

★2025年デフリンピック・エンブレム発表（９月3日）
★全国ろうあ者体育大会(９月/福井県)
★手話言語の国際デー(９月23日)
★スポーツの日（10月９日）
★2025年デフリンピック開催2年前（11月15日）
★手話・耳の日関連イベント（２月～３月）

2）議案

○ 実施方法と助成金額について
- きこえない人ときこえる人の協働を通した共生社会やつながりの実現を具体化するため、実施主体は地域ろう当事者団体と地域行政や関係機関との共催、もしくは地域ろう当事者団体主催、地域行政後援を基本とする。
- 運営委員会はその取り組みを後押しする為、実施主体との連携やその取り組みへ、地域ろう当事者団体へ合計80万円（1か所10万円×8ブロック）の助成を行う。

３．議題（２）

「第 25 回夏季デフリンピック競技大会 東京 2025 大会概要」の策定について

○　構成

- 大会ビジョン
- 大会名称
- 大会期間
- 参加国・選手数
- 実施競技
- 競技会場　等

※　上記構成について、障害当事者や有識者の意見を計画に反映させるため、東京都スポーツ文化事業団内に設置した「デフリンピック大会運営にかかるアスリート会議」において議論

○　今後のスケジュール

- 8 月 21 日　　全日本ろうあ連盟　臨時理事会
  東京都スポーツ文化事業団　臨時理事会
- 8 月 22 日　　第 4 回大会準備連携会議
  大会概要公表

４．（１）2023年度事業「大会エンブレム制作」

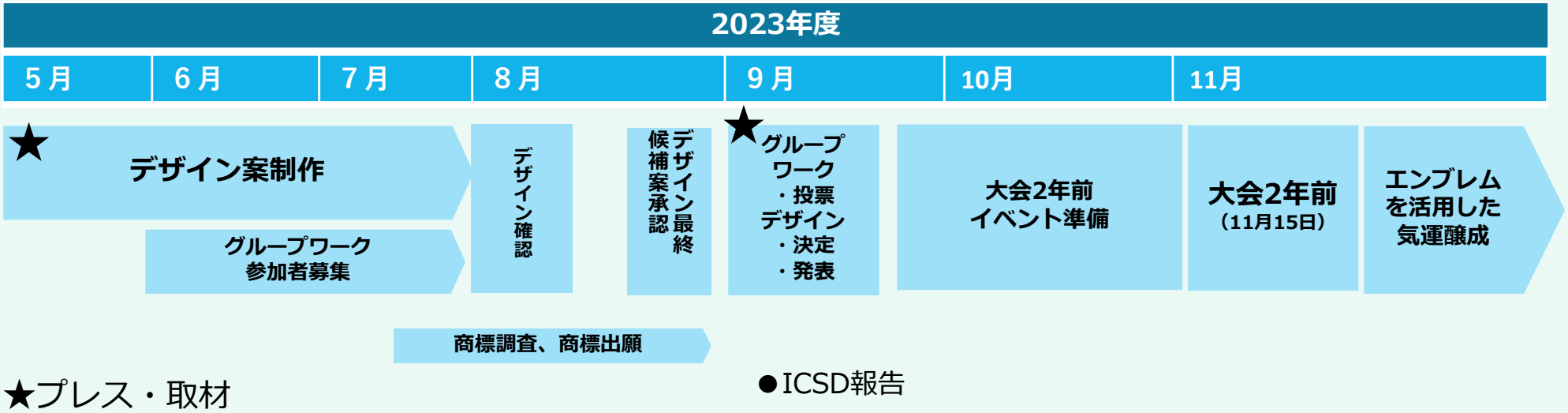
1）2025大会エンブレムの制作 進捗状況

○ 筑波技術大学の学生によるデザイン案の制作

○ グループワーク 投票、決定、発表

→９月３日（日）午後に東京都パラスポーツトレーニングセンターで、都内在住・在学の中高生（ろう学校含む）によるグループワークを実施。候補案を製作した学生からのプレゼンを聞き、参加者同士の意見交換や、またデフアスリートとの交流を通じてデフリンピックへの理解を深め、候補案への投票を行い、決定・発表を行う

2）スケジュール 進捗状況



4．（2）2023年度事業「社会的・文化的プログラムの検討」

1）社会的・文化的プログラムの検討について

〇社会的・文化的プログラムの検討

→外国からの選手、観客等だけではなく、全国への気運醸成に資するプログラムとなるよう、きこえない芸術文化当事者団体や外部有識者、東京都等と連携・協力し、プログラムの調査・検討を進める

〇検討チームの結成

→チーム リーダー：植野 圭哉（千葉県聴覚障害者協会理事長／全日本ろう者演劇協会事務局長）
委　員　：きこえない芸術文化当事者団体 委員（２名）
外部委員 ２名（案）

→過去のデフリンピック大会の社会的・文化的プログラムの調査を基に、東京2025デフリンピックにおける社会的・文化的プログラム案の策定を行う
プログラム案は、きこえない人の文化芸術活動や手話言語文化について、国内外の人に触れてもらうことを機に、“誰一人取り残さない世界（SDGs）”の実現につながることを目的とする

2）スケジュール 進捗状況

2023年度											
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月

検討チームの委員人選、調整

〇 検討チーム会議の実施（全8回を想定）
〇 過去デフリンピック大会における社会的・文化的プログラムの調査
〇 東京2025デフリンピックにおける社会的・文化的プログラム案の策定

デフリンピック大会運営にかかるアスリート会議について

○　大会ビジョンをはじめ、競技会場、宿泊・輸送など、大会の実務面での計画から構成される「開催基本計画」について、全日本ろうあ連盟、東京都、スポーツ文化事業団の三者で作成

○　作成にあたり、障害当事者や有識者の意見を計画に反映させるため、「デフリンピック大会運営にかかるアスリート会議」を事業団内に設置

○　７月20日に第１回会議を開催し、今後、９月、10月にも開催予定

	区　分	委員	競技・役職 等
1	デフアスリート	したら　あきひさ **設楽　明寿**	・ デフ陸上 ・ 筑波大学大学院 図書館情報メディア研究科
2		たけかわ　すみこ **竹川　寿美子**	・ デフカーリング ・ 国家公務員共済組合連合会 虎の門病院
3	パラリンピアン	ね　ぎ　しんじ **根木　慎志**	・ 車いすバスケットボール ・ 一般社団法人 日本パラリンピアンズ協会 副会長
4	オリンピアン	**ヨーコ・ゼッターランド**	・ バレーボール ・ 日本女子体育大学 准教授

4-（4）2023年度デフリンピックの都内気運醸成に向けた取組について

（令和５年８月時点）

大会開催時の到達点

○　スポーツが本来持つ、喜びや感動、人とのつながりなどを誰もが享受できるスポーツムーブメントを創出

○　デジタル技術などを活用し、言語や障害など、多様なバックグラウンドを持つ人々が共に生きる社会づくりに貢献

【気運醸成及びユニバーサルコミュニケーションのステップ（案）】

	2023年度	2024年度	2025年度（開催年度）
気運醸成	大会を「知ってもらう」	大会の「ファンを増やす」	大会に「参画する」
ユニバーサル コミュニケーション	先進技術の開発促進	試験活用	本大会での活用・社会実装

2023年度の主な取組（予定）

○　**特設WEBサイト**
　大会概要や国内外のデフアスリート紹介、分かりやすく手話を学べるコンテンツ等、幅広い情報を発信する特設WEBサイトを開設

○　**デフリンピック応援アンバサダー**
　デフスポーツに理解がある著名人や話題性のあるキャラクターなどからアンバサダーを起用し、各種イベントで活用

○　**デフリンピック２年前の取組**
　若年層が集まる店舗を、デジタル技術を使った聴覚障がい者との交流の場として展開

○　**大会の魅力発信動画**
　デフリンピックのPR動画を制作し、様々な媒体を活用して国内外へ広く発信

○　**ユニバーサルコミュニケーション**
　展示会や各種イベント等の場を通じた、デジタル技術のＰＲや実証、新たな技術開発を促進